

助詞

助詞には、花は、花の、花が 等のように、1音からなっているものと、花には、花とか のように、2音からなっているものがあります。この1音から成っているものを、**第一助詞**と言い、2音から成っているものを**第二助詞**と言います。

インツクキの符号は、文字の書き始めを、助詞符号は、文字の書き終わりを活用します。

第一助詞符号

符号

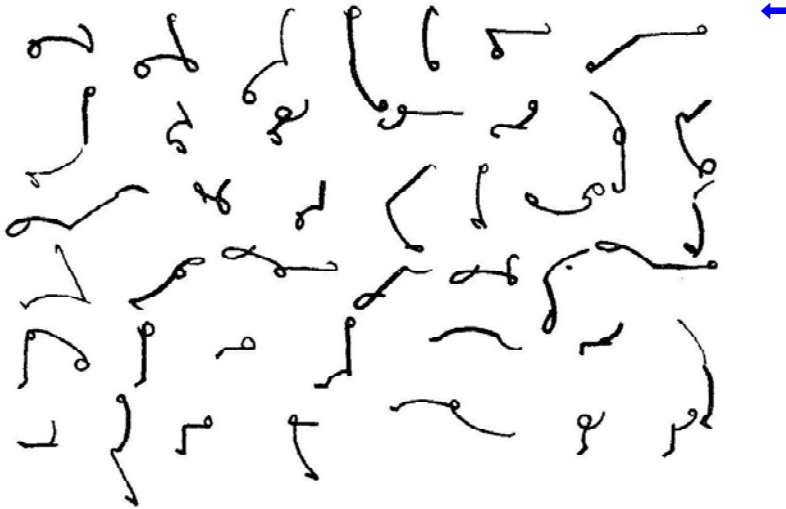


	◦	は、ば……小円
	◦	す、し……大円
	⊙	か……結び小円
	◦	の……大カギ
	◦	に……小カギ
	◦	を……小楕円
	⊙	も……結び小楕円
	◦	て……大楕円
	⊙	で……結び大楕円
	〃	と、ど、……キの方向にはねる
	◦	が……チ、カのみ
	ノ	た、した……タのみ
	ノ	ず、せず……フのみ

ペン書きを建前として立案されていますので、鉛筆で書く場合は「ㄥ」と「ニ」を次のように書いても差し支えありません。

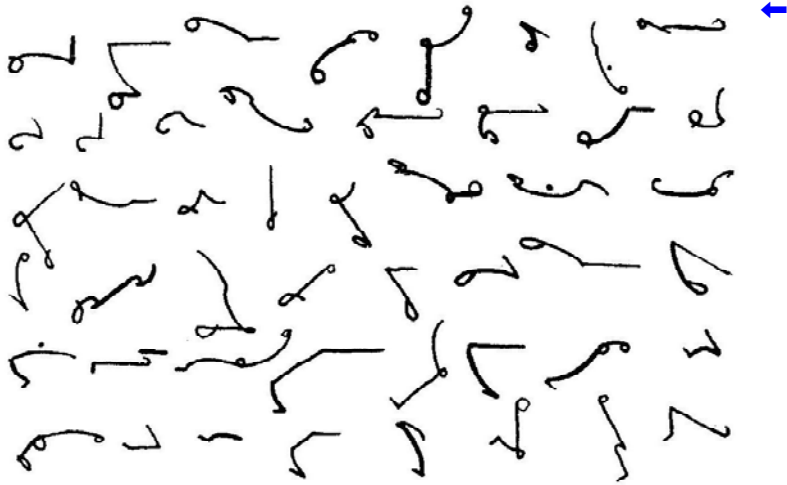
	一	「を」の小楕円は左巻き小楕円
	一	「に」の小カギは右巻き小楕円

第一助詞 例題 1



夢か 言明す 奔走す できれば 僕は 講義は 今度は
伝説に 記者に 次第に 個人の 人格は 予定の だろうか
認めて 場合も 草も 道路も 本を 才能を 差別を
曲目と 雑然と 公園で などで 注文で すべて 考えて
栄転した できた 書いた 電車が 雨が 自覚が 呼べど
比較せず 勉強せず 関知せず 軽んず 重んず 支配した 新築した

第一助詞 例題 2



雲か 転がす 返す 満足す 宣伝す 冬は 春は 幸福は
山の 近くの 朝の 大いに 紅茶に 黒板に 風か 花か
時計も 顔も 足も 手も 試験を 外苑で 犬を 今年の
本と 自動車で 喜んで 飛んで 書いて 決めて 越えて 連れて
無理だ 学校が 専門が 小鳥が ほとんど これと 漫然と 君と
問題にせず 聞かず 見ず 語らず 言わず 提案した 研究した 通知した

動詞

アリマス

「点」の位置で、読み方が決めています。

上段に点……………アリマス、ノデアリマス

上段にキの字の方向にはねる……………アリマシテ、ノデアリマシテ

下段に点……………アリマシタ、ノデアリマシタ

アリマシタ アリマシテ アリマス
ノデアリマシタ ノデアリマシテ ノデアリマス



ゴザイマス

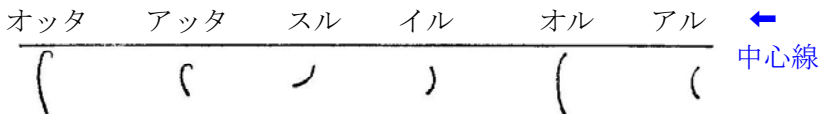
「ゴ」の字の最小線を使って、次のように書きます。

ゴザイマシタ ゴザイマシテ ゴザイマス
ノデゴザイマシタ ノデゴザイマシテ ノデゴザイマス



アル、オル、その他

「ある、おる、いる、する」は、下段にハ、ホ、ヒ、シと書き、「あった、おった」は、大カギをつけます。



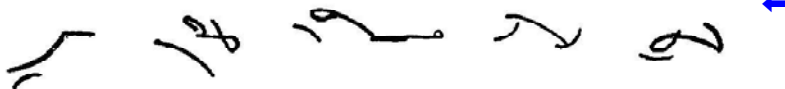
ノデ省略

「あるノデある、するノデある」のように、動詞の前に来る「ノデ」は省略します。

ナイ、シナイ、その他

「ない、しない、いない、えない、じゃない」の否定詞は、次のように文字の終わりを、**下からすくって**書きます。

風じゃない 機械を得ない 考えていない 使用しない 夢でない



デハ省略

「ものデハない、ことデハなく、そうデハなかった」のように否定詞の前に来る「デハ」は省略します。

ナカッタ、シナカッタ、その他

「なかった、しなかった」の否定詞は、文字の書き終わりを「タ」の最小線で切ればよいのですが、「デハない、デハなく、デハなかった」のように「デハ省略」の場合は、それぞれ下からすくって書きます。

練習 しなかった 授業は なかった そうデハ なかった ことデハなく ものデハない

